

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第369号

平成29年3月23日

練馬区立光が丘第八小学校

校長 鈴木 隆志

「共創」の思いを形にしたい

校長 鈴木 隆志

光が丘第八小学校の平成28年度は、本日修了式を迎え、明日の卒業式を残すのみとなりました。今年度は50名の6年生が巣立ちます。光八小では、学校・家庭・地域みんなの力で、光っ子たちみんなを大切に育ててきました。この一年、光っ子たちはそれぞれに大きく成長をしました。

光っ子たちの成長は、常に右肩上がりの直線的なものとは限りません。ある時期には、急激に成長することもあれば、寄り道をして停滞や後退をしながらも、緩やかに成長していくこともあります。光っ子たちの成長にとって、光八小は大きな役割と責任を負っていますが、決して学校だけの力ではありません。光っ子自身の夢や希望や目標があって、そこに向上心や努力、行動力、積極性が働き、その姿を家庭や地域や学校が優しく包み込むことで、光っ子たちは確実に成長を続けているのです。

一年前、私は「共創」の思いをお伝えしました。「共創」とは、光っ子たちを健全に育むために、光八小が家庭や地域と共に創るコミュニティとなるということです。一年間を振り返ると、今年度も様々な「共創」の場面がありました。防災授業では光八小地域防災連絡会の皆様と、むつみ会交流や餅つきではむつみ台団地の皆様と、マラソン大会では田柄町会の皆様と、共に創る教育活動を続けています。運動会や学芸会はもとより、各学年の学年行事等では、PTA時計塔の会・保護者の皆様と共に、光っ子たちの頑張りを支えています。お話ポケットでは、光っ子たちの読書活動を共に紡いでいます。葉かげの集いやひろば祭りでは、練馬区青少年委員や学童クラブ、光が丘児童館との共創がありました。近隣保育園や中学校、高校との交流もありました。ゲストティーチャーをお招きしての授業も数多く実施しています。年間を通して、学校応援団や青少年育成第七地区委員会の皆様には、大変お世話になっています。光っ子たちは、保護者や地域の皆様に優しく包み込まれているのです。

「みんなをみんなで育てる」ということは共創の大事な捉え方の一つではありますが、一人の子を共に育てるということが基本です。親にとっては、我が子の育ちが関心事ですし、学校にとっても、光っ子たち一人一人の育ちを大事にしていることは、言うまでもありません。

今年1月、ある保護者が私を訪ねてきました。お子さんについての近況報告です。低学年の頃は、お子さんの育ちに心配や不安が多くあって、悩んでいらしたお母さんです。御家庭と学校と関係機関とで共に育てていくという手だてを講じてきました。その結果、この一年間のお子さんの成長ぶりにとても喜んでいらっしゃいました。学校でもその子の大きな成長を感じていましたので、私も一緒に喜びを共有させていただきました。「また来てください。」「また来ます。」で、面談を終えました。

学校には、スクールカウンセラー（週1日勤務）と心のふれあい相談員（週2日勤務）がいます。どちらも子供や保護者の悩み、不安、ストレスを和らげるため、相談を受け、話し相手となります。今年度は、二人あわせて延べ33回の保護者との話し合いを行いました。また、今年度からスタートした特別支援教室「こぶしルーム」では、週1回、巡回指導教員が来て個別指導にあたっています。スクールカウンセラーも心のふれあい相談員も巡回指導教員も特別支援教室専門員も、光っ子たちの育ち、成長には、欠かせないスタッフです。一人一人の子を共に育てるという、共創の姿です。

新年度、光八小は「学校・地域連携推進校」の指定を受けます。学校支援コーディネーターを配置し、学校サポーター（スタッフ）と共に、様々な取組を展開していきます。一つは「地域未来塾」と呼ばれる放課後等の学習支援です。また、授業の補助（サブティーチャーや机間指導）もあるので、学習面での子供の困り感に対応していくことができます。この他に、図書館運営支援や校外学習時の引率補助、ゲストティーチャーによる指導など、これまで以上に地域との共創が進むものと期待しています。「共創」を形にしていく新年度です。これからもどうぞよろしく願いいたします。